

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	12-043	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Brief motivational interviewing intervention for peer violence and alcohol use in teens: one-year follow-up. 10代における集団暴力、飲酒に対する簡易的動機づけ面談介入について: 1年追跡結果		
執筆者		
Cunningham RM, Chermack ST, Zimmerman MA, Shope JT, Bingham CR, Blow FC, Walton MA.		
掲載誌 (番号又は発行年月日)		
Pediatrics. 2012;129:1083-90.		
キーワード		
10代の若者、若年者の暴力、飲酒、救急医療		
要 旨		
<p>背景:</p> <p>救急医療の現場では、都市部の10代の若者に対して、暴力およびアルコール乱用を減らすため、簡易な介入を受ける機会が与えられる。以前の研究では、これら介入が6か月後の暴力および飲酒を減少させることが示された。今回は、この介入の12か月後の効果を検討する。</p> <p>方法:</p> <p>昨年飲酒または暴力で救急を受診した記録のある14から18歳の患者を、コンピュータにより無作為的に、対照群、またはコンピュータのみかコンピュータを用いた専門家による簡易的介入群に割り付けた。主要アウトカムは、ベースラインおよび12か月後に判定し、暴力(集団攻撃、集団差別、暴力に起因した事象)および飲酒(アルコール乱用、大酒飲み、飲酒に起因した事象)とした。</p> <p>結果:</p> <p>3,338人の10代の若者が抽出された(88%参加率)。その内、暴力かつ飲酒による受診であった726人を無作為に2群に割り付けた。その内84%が12か月後追跡可能であった。対照群と比較して、介入群では12か月後において有意に集団攻撃($P<0.01$)、および集団差別($P<0.05$)の減少を認めた。飲酒関連のアウトカムについては、2群間で有意差は認めなかった。</p> <p>結論:</p> <p>救急における10代の若者に対する介入の1年後の評価では、専門家によるコンピュータを用いた集団暴力の減少を目的とした簡易的介入の効果を支持する結果が得られた。</p>		